

「シリーズあれから2年」

以前はまだ新しい軽量鉄骨の家が建っていたのですが「お祖母ちゃんと一緒に住みたい」とお孫さんが言った一言から家づくりを考えられるようになりました。

そこで家族会議をしてみんなが意見を出して話し合っていると地産地消で気候や風土に合った地元の木材を使うことになり、兵庫県産木材を使用した家が完成しました。

お祖母さん、娘さんご夫婦と3人の子供さん6人家族ですが、お互いのプライベートな空間を保つためにキッチンと浴室、トイレは分けて設けましたが玄關はひとつです。そしてどの部屋にも風が通り、やさしい日差しが入り込む、三世代の家族のつながりを考えてみんなの居心地がよい間取りになっています。

2階の明るく開放的なリビングは家族の憩いの場で、そこを中心に書斎と子供部屋が配置されているので子供たちが何をしているのがキッチンで調理しながらでも良くわかるので奥さんも安心。

朝、東からの日差しがやさしい中で朝食をとることのできるダイニングは、夜になると家族の会話が弾む憩いの場となり、時間が経つのも忘れ

「家族の会話が弾み 心が休まる木の家」

るほど。休日のロフトはご主人と未っ子の隠れ家で一日中、二人で遊んでいても飽きないようです。各部屋の床は30ミリの杉板で素足にも優しく、寝つ転がっても気持ちいい感触が何とも言えません。壁と天井は環境にも優しいセルロースファイバーの断熱材。仕上げは漆喰なので夏は調湿効果もあり涼しく冷暖房をする必要がないほど快適で健康な生活をされています。外壁も漆喰塗で年月がたち風化していくほど味わい深くなるのが楽しみです。木・土・紙などの自然素材を使用した家は人の心や体を癒してくれます。

木のすまい 仕様の家



消えた軒下空間

戦後、日本の住宅の外観を変えたものは屋根や壁の材料だけではありません。むしろ屋根の形の変化のほうが大きく、軒の出が短くなり、洋風になってきたと言えるのではないのでしょうか。

軒の出が短くなった理由としては、①壁の仕上げ材が雨に強くなり、深い軒が必要なくなった②短い軒の方が部材が少なく、その分安く仕上げられる③都市部では敷地が狭く、建物の床面積を増やす上で敷地いっぱい建物建てるなどのことが考えられます。

軒の出が短くなったことは単に住宅の外観や街並み景観が変わっただけの問題ではなく、そこには別の問題があるのです。これまで軒下でなされてきた多くの生活行為をする場所を失ってしまったのです。

広い軒下ではいろんな物を吊ったり、干したり、雨や雪の日や太陽が照りつける日は庇の下でいろいろな家事仕事ができるとても便利な空間でした。

これらの場所は現在、ベランダやバルコニー、デッキ、テラスといった空間に代わってきたが、いずれも屋外と屋内をつなぐ中間領域(あいまい空間)であり、住宅にとってこの種の空間こそが住生活を豊かにする重要な要素なのです。

ひょうご木のすまい協議会
会長 三渡 圭介

【兵庫県庁林務課からのお知らせ】

兵庫県の木造住宅ローンのご案内

【融資制度の概要】

融資利率1.0%固定(平成26年3月31日融資実行分迄)

●新築・増改築

融資限度額: 2,000万円(返済期間25年以内)
ただし、県産木材を60%以上使用し、長期優良住宅の場合は返済期間は35年以内に延長可能です。なお、26年目以降の利率は2.0%になります。

●リフォーム

融資限度額: 500万円(返済期間10年以内)

詳しくは下記のホームページをご覧ください。

兵庫県 木造住宅ローン

検索

—ひょうご木のすまい協議会のイベントご案内—

小冊子

「キノコイェノコ ひょうご2012」

「ひょうごの木を使った木の家」について、ユーザーの話や兵庫県林務課の話などが、掲載されています。木のすまいの考える「スマートハウス」では、より良くひょうご木のすまい協議会を理解していただく内容となっております。

- 小冊子「キノコイェノコ」ご希望の方は事務局まで～送り先を事務局までお知らせ下さい。



※バックナンバー(ひょうご2011、2010、2009)もございます。数に限りがありますので、ご希望の方はお早めにお申込ください。